

【授業科目】生化学実習

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
千原 猛	1年次後期	必修	1	45	実習	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>専門科目の臨床化学へ橋渡しができるような基本的な内容の実習を行う。マイクロピペットなど実習で用いる機器の使用法の修得後、項目としては糖質、蛋白質、脂質、ビタミン、酵素などに分け、実習を行う。</p> <p>1)糖質について、酸分解、酵素的分解など、2)蛋白質について、塩析の原理とビュレット法などの定量法、電気泳動などの蛋白分画法、3)ビタミンについては定性法、4)酵素については、酵素活性測定の実験の理解をし、実習を行う。</p> <p>各項目毎のレポートは、測定原理等がしっかりと記載されているかを確認した後、必要であればコメントをつけて返却する。</p>						
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロピペット等の器具の使い方を理解し、生化学に基づく臨床検査の基本的な原理を理解する。 						
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>生化学の講義内容を復習する。</p> <p>事前：生化学の講義を復習する。</p> <p>事後：毎回学習したポイントについて、レポートを作成しながら、よく復習をする。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>第 1,2 回 基礎的手技</p> <p>第 3,4 回 糖質 (1)</p> <p>第 5,6 回 糖質 (2)</p> <p>第 7,8 回 脂質</p> <p>第 9,10 回 ビタミン</p> <p>第 11,12 回 タンパク質 (1)</p> <p>第 13,14 回 タンパク質 (2)</p> <p>第 15 回 酵素学的分析法</p>					<p>全て 千原</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。</p> <p>30% レポート 70% 学期末試験</p>						
教科書	<p>プリントを配付します。</p>			参考書等	<p>なし</p>		
学生へのメッセージ	<p>生化学の実習で学ぶ原理は、臨床検査の現場で使用される検査法の基本的原理となるため、よく理解してください。</p>						